

■ グループ紹介

理化学研究所

1. 沿革

理化学研究所は、科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）に関する試験研究を総合的に行い及びその成果を普及することを目的として、昭和33年10月21日設立されました。前身となる（勸）理化学研究所の創立から来年は76年になります。財団は、大正6年、皇室、政府及び産業界からの補助金、寄付金等をもとに日本で初めての民間の自然科学の総合研究所として創立されました。以来、多くの研究実績を挙げるとともに学界、産業界の第一線に活躍する人材を多数輩出し、日本の科学技術の基礎づくり及びその発展に大きく貢献してきました。

2. 研究業務

当研究所は、主任研究員が主宰する研究室を研究の基本に据え、その研究活動は、物理、化学、工学、ライフサイエンス等幅広い分野にわたるとともに、それぞれが基礎研究から、新しい科学技術を産む応用研究にまで広がっています。

(1) 一般研究

各研究室が、それぞれの自由な発想により、先端的なテーマを追求するための研究で、当研究所の研究活動の基本となっています。50研究室等で経常的に約180の研究課題を実施しています。

(2) 特定研究

特別に設定した研究費をもって進める研究で、レーザー科学研究、光合成科学研究、原子力研究、放射光研究、新生物制御科学研究、新反応場化学研究、新超電導材料研究、メゾフェイズ化学研究、工業化研究、国際共同研究及びバイオデザイン研究を実施しています。

なお、放射光研究では、わが国の関係研究者の年来の宿願であった世界最大の大型放射光施設SPring-8（80億電子ボルト級）の建設を、日本原子力研究所と

共同で平成3年の秋から、兵庫県播磨科学公園都市で進めています。SPring-8は、これまでの放射光施設に比べて格段に性能が高く、完成すれば、利用研究分野の拡大が大いに期待されています。

(3) ライフサイエンス研究

ライフサイエンス研究は、多岐にわたる生命現象を種々の側面から究明し、また、その研究成果を医療・福祉・農業・工業・環境対策等に応用しようとするもので、当研究所のライフサイエンス筑波研究センターにおいて、研究を推進しています。

(4) フロンティア研究システム

フロンティア研究システムは、21世紀に向かって新しい分野を発掘、開拓、推進するため、昭和61年度に開設されたもので、従来の研究組織の枠を超えた開かれた柔軟な研究体制によって、広範な分野の国内外の研究者を流動的に結集しつつ、先端的な基礎研究を遂行しています。

現在、生体ホメオスタシス研究プログラム、フロンティア・マテリアル研究プログラム及び思考機能研究プログラムの3つの分野で研究を進めています。また、平成2年度より地域のポテンシャルを活かした研究を推進するために仙台市において光と物質との相互作用に関する幅広い基礎研究を行うフォトダイナミクス研究プログラムが発足しています。

3. 研究支援体制

科学技術の最先端領域において、研究活動の高いポテンシャルを維持し、独創的な成果を生み出すためには、研究活動を支える部門においては、研究者の多様なニーズに応える体制が必要です。

当研究所においては、研究支援体制として、研究基盤技術の開発・分析・解析等を担当する研究基盤技術部、研究室の各種の膨大な計算処理を行う電子計算機室及び研究情報の収集整理を行う図書館等があります。また、研究遂行上の安全の確保、環境の保全に努める

ために安全管理室を設置しています。このほか、我国のライフサイエンス研究推進のため、微生物、細胞・遺伝子等の収集、検査、保存、提供業務等を進め、国内外に対する研究支援業務も積極的に推進しています。

4. 国内外との研究協力

当研究所は、開かれた研究所として、外部との連携、交流を推進し、外部研究者の受入れを活発に行うとともに、産学官との共同研究等研究協力を数多く行っています。

特に、埼玉大学及び筑波大学博士課程では当研究所の研究者が客員教官に就き、学生の研究指導に当たっています。また、次代の科学技術を培う基礎的研究の一層の強化のため、科学技術庁と連携して基礎科学特別研究員制度を設け、平成元年度より、独創的な若手

研究者を3年間受け入れています。

一方、最近の科学技術における国際協力の重要性の増大にともない、当研究所も二国間協力の一環として、日米光合成共同研究、日仏重イオン科学研究等を進めるとともに、パスツール研究所(仏)、マックス・プランク協会(独)等との間の機関間協力を進めています。また、サミット参加諸国、アセアン加盟諸国との多国間協力も積極的に進めています。

さらに、英国ラザフォード研究所とは、ミュオン科学の協力研究を推進するため、同研究所の加速器施設に当研究所の施設を設置し研究を推進しています。

所在地：〒351-01 埼玉県和光市広沢2-1

(文責：碓 稔)

協賛行事ごあんない 「第15回触媒燃焼に関する

シンポジウム」について

<主催> 触媒燃焼研究会、触媒学会

<協賛> 日本化学会、日本セラミックス協会他

<日時> 平成5年6月25日(金) 13:30~

<会場> 工学院大学新宿校舎28F会議室
(東京都新宿区西新宿1-24-2)

<発表申込締切> 平成5年3月31日(水)

<参加費> (資料代を含む)

当日会場で申し受けます。

主催および協賛学協会会員 5,000円、

学生 1,000円、

非会員 8,000円

<発表要旨締切> 平成5年5月28日(金)

■ 申込連絡先 〒816 福岡県春日市春日公園6-1 九州大学大学院総合理工学研究科

材料開発工学専攻 荒井弘通

TEL 092-573-9611 (内線 310) FAX 092-575-2318